

# ロシアナのロシアな話—乗り物編— ／いちのへ友里



イラスト 岩井正幸

ただいまモスクワは「バービエ・レータ(女たちの夏)」。まるで女性が家庭に入り子育てを終えてから、再び華やかな時期を迎えるように、秋に入ってから、小春日和が続くこの季節。木々が一斉に黄色く色づき、ロシア人は「黄金の秋」を満喫しに出掛けます。

“地下鉄”で出掛けると、ステンドグラス、壁画、彫刻、シャンデリア…。駅ごとに独特の装飾が施された「地下鉄芸術」をお楽しみいただけます。長さも速さも日本の2倍はあるエスカレーターでホームに降りると、電気が消えかけた車両が到着！ 恐る恐る乗り込むと、なんと右からはバイオリンを演奏している男性が、左からはボールペンを売る女性が歩いてきて、驚く私の横では「お気をつけください！」というアナウンスより早く、停車前にドアが開きました！

“乗り合いバス”で出かけると、時刻表はあってないものです。津軽弁にも勝る語調の強さと3倍はある声量で「遅いわよ！」「ほんとに！」「いつまで待たせるのかしら」「でも人生ってそんなものよね」…。乗り合わせた人たちは楽しそうに文句を言いつつバスに揺られています。

“タクシー”で出かけるとき、地元の人がよく利用するのは白タクです。ヒッチハイクのように手を出し、場所と値段を交渉すれば、止まった車がタクシーです。ちょっとしたお小遣い稼ぎなのか、はたまたとっても親切なのか、パトカーや救急車をタクシーに変身させたという武勇伝を持つ人もいます。

“鉄道”で遠出するとき、どこまでも長い絵巻物みたいに続く車窓は同じでも、過ごし方は千差万別です。金色の胸毛をのぞかせて上段ベッドに横たわり、チェス雑誌を眺めている人、ウオツカ瓶とサラミを並べて、個室のメンバーでカードゲームに興じている人、炒(い)ったヒマワリの種をカリッと噛(か)み、ペツと出して殻の小山を作りつつ、クロスワードパズルに熱中している人…。

黄金の秋より前に、乗り物そのものも楽しめる、モスクワ初心者の方です。

(モスクワ在住、ロシア国営放送「ロシアの声」アナウンサー)